

新県立中央図書館整備計画（令和3年9月） 概要版

1 計画の概要

《計画の背景》

本計画は、令和2年度までに策定した「新県立中央図書館基本構想」及び「新県立中央図書館基本計画」を受け、新県立中央図書館整備の実現に向けて、導入機能や施設計画、事業手法などについて取りまとめたものです。

《計画地の概要》

- 【所在地】 静岡市駿河区東静岡二丁目
- 【敷地面積】 2.43ha（東西約230m、南北約120m）
- 【用途地域等】 商業地域（容積率500%、建ぺい率80%）
- 【地区計画】 東静岡地区（市決定）＜核施設地区＞
 - ・建築物の用途制限（住宅、工場等建築不可）
 - ・敷地面積の最低限度（1,000㎡）等



2 施設整備のコンセプト

新県立中央図書館
基本構想
平成30年3月

《目指すべき姿》

- ① 県民の生涯学習・読書活動の拠点としての図書館
- ② “ふじのくに”のことなら何でもわかる図書館
- ③ 県内市町立図書館等を強力に支援する図書館
- ④ 県民が出会い交わり、新しい文化を育む図書館

新県立中央図書館
基本計画
平成31年3月

図書館サービス

- ・快適な閲覧環境による資料提供
- ・専門的レファレンス、課題解決型支援
- ・多様な県民の特性に対応
- ・子ども図書館による児童サービス
- ・デジタル化・オープン化推進
- ・講座、ネット利用サービス
- ・「葵文庫」等貴重書の常設展示
- ・歴史文化情報センターの併設

市町立図書館等への支援

- ・県全体の図書館サービスを底上げ
- ・先進的サービスの試行

資料整備計画

- ・既存収集方針を維持しながら拡充
- 「読書果しずおか」の推進
- ・読書推進施策を集約し推進

県民交流と新たな文化の創造・発信

- ・県民が知識と出会い交流する空間
- ・新たな静岡の文化を創出

新県立中央図書館の特徴

県民の知のインフラとしての図書館

《施設》

- 確かな収蔵能力 200万冊
開架80万冊→日本一規模
- 利用者のニーズに応じた閲覧環境
研究エリア：静かな空間を確保、個別閲覧席等
一般エリア：多少の会話を許容、居心地のよい空間
- 誰もが利用しやすいUD対応施設
- 《サービス》
専門的で高度なレファレンス、課題解決型支援
県内市町立図書館・学校図書館の支援
全点収集の児童書を有する子ども図書館
貴重書展示、豊富な地域資料、県史編さん資料

未来につながる新しいタイプの図書館

- 図書館の枠を超えた学び・交流し・創造する場
多彩な情報との出会いの場
映像・実物・デジタルなど様々なメディアで情報発信
新書・マンガも含めたテーマ別配架で好奇心を刺激
- 人と人との出会いの場
出会い・交流する居心地の良いサードプレイス
- 新たな文化の創造・発信の場
県民交流・文化創造を手助けする機能の設置

アフターコロナ時代への対応

- 図書館のDX推進、3密の回避
A | 技術・電子図書館の導入、非接触サービスの拡充
3密を避けた空間整備
- 周辺施設等との連携、リモート利用促進
既存施設を最大限活用し東静岡地区全体で機能発揮

ポスト・コロナ社会の到来
「新しい生活様式」の浸透

3 導入する機能（※詳細は別紙）

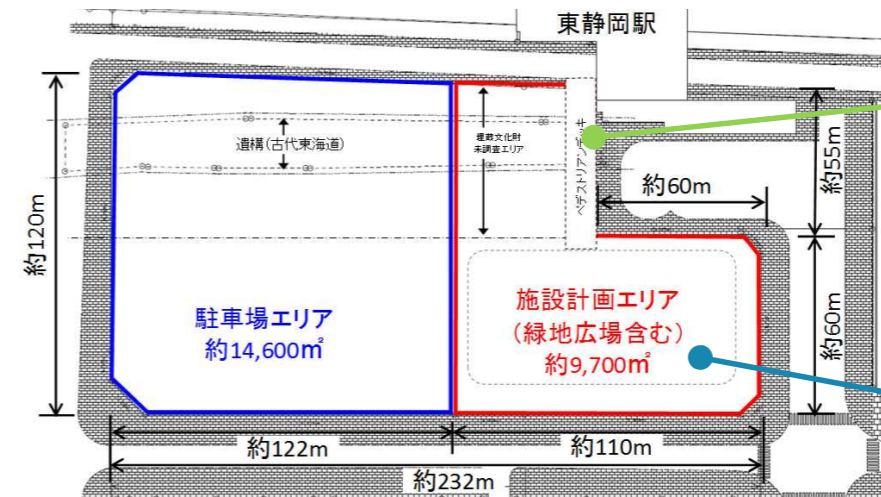
5 管理・運営の方針

全館移転に伴い、既存の県立中央図書館機能を拡充します。さらに、新たなタイプの図書館としての機能を拡張するため、県民の学び・交流を通じて新たな文化の創出につながる機能を導入します。

導入機能	内容	想定規模 （※共用部含む）	運営主体	管理・運営方針
図書館	従来の図書館機能 書架／閲覧席／課題解決型サービスコーナー／新聞閲覧コーナー／児童室／読み聞かせの部屋／子ども図書研究室／貴重書展示コーナー／歴史文化情報センター／学習室／サイレントルーム／個室研究室／公開書庫／閉架書庫／貴重書庫 等	15,100㎡程度	県	根幹業務は県直営を維持し、定型業務は民間のノウハウを取り入れ効率化を図る
	新しいタイプの図書館機能 情報発信コーナー／テーマ別配架コーナー／オープンコラボレーションスペース／多目的ホール／セミナールーム／ラボ／カフェ／大学コンソーシアム事務室 等	4,500㎡程度	民	民間のノウハウを最大限活用するため、指定管理者制度等の運営手法を想定
（施設計）		19,600㎡程度		
緑地広場・テラス	○ アフターコロナ時代に対応した外部空間による閲覧席確保、憩い・やすらぎの場		県	維持管理・運営に係る経費を県が負担し、民間事業者による管理を想定
駐車場（平面） 駐輪場	○ 新県立中央図書館及びグランシップ利用者用駐車場（550台） ○ 新県立中央図書館利用者用駐輪場		県	維持管理・運営に係る経費を県が負担し、民間事業者による管理を想定
歩行者用通路 （ペDESTリアンデッキ）	○ 東静岡駅と新県立中央図書館を連絡		県	維持管理・運営に係る経費を県が負担し、民間事業者による管理を想定

4 施設計画

敷地東側を緑地広場を含む施設計画エリアとし、西側を駐車場エリアとします。



- 図書館施設と東静岡駅をペDESTリアンデッキで接続することにより、利用者の利便性向上を図ります。
- 敷地北側には、古代東海道の遺構の存在が想定されるため、主に南側で建物整備を行います。

6 事業手法

広くアイデアと人材を求めつつ、コストと性能の確実性を担保出来る方式を検討し、アフターコロナ時代に対応した「新しい図書館」を確実に早期に実現する事業手法とします。

○発注方式

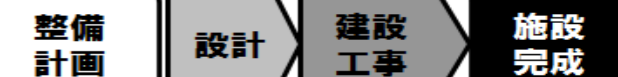
設計	プレ・デザインを取り入れた改良版公募型プロポーザル
工事	一般競争入札（総合評価落札方式）【想定】※今後検討

○概算事業費

180億円程度
※設計、建設（図書館施設、ペDESTリアンデッキ、駐車場等）、備品・システム費等含む

7 スケジュール

令和2年度 令和3～5年度 令和5～8年度 令和8年度



3 導入する機能

県民の知のインフラとしての図書館

県立図書館として相応しい蔵書と専門性の高い機能を拡充するとともに、県民に開かれた親しみのある図書館として全国に先駆けたアフターコロナ時代の新たな総合図書館を目指します。

利用者のニーズに応じた閲覧環境

●調査研究に没頭できる環境



国際教養大学 駒形記念図書館
静寂な空間・個別閲覧席を提供
飲料摂取可能とし、電源も用意



沖縄県立図書館

●豊富な蔵書をより身近に利用できる公開書庫



立命館大学平井喜一郎記念図書館
貸出カードによる入室管理で
より多くの本と出会う機会を創出

●全点収集の児童書を活かした子ども図書館



岡山県立図書館
《子ども図書研究室》
保護者等を支援し子どもの読書活動を推進

豊富な蔵書（収蔵能力200万冊）を活用したサービス

- 豊富な学術書・研究書を活用した高度なレファレンス
- 静岡県全体を支える県内図書館の支援
- 地域資料の充実等“ふじのくに”のことなら何でも分かる図書館



沖縄県立図書館
ブース形式で回りに配慮した
レファレンスカウンター



沖縄県立図書館
大和市文化創造拠点シリウス
利活用だけでなく
保存にも配慮した地域資料・貴重書展示

●生活に密着した課題解決型サービス



鳥取県立図書館
健康・医療など県民の身近な課題を
様々な資料で解決



鳥取県立図書館

県内
図書館の
中核

県民に
開かれた
図書館

●居心地の良い様々なタイプの閲覧席



岐阜市立中央図書館
ゆったりとした閲覧席・机の千鳥配置等で「新しい生活様式」にも配慮



沖縄県立図書館



海老名市立中央図書館
《児童室》
乳幼児・児童へ貸出や
読み聞かせ等を行う



山梨県立図書館

未来につながる新しいタイプの図書館

従来の図書館の枠を超えて、未来につながる新しいタイプの図書館を実現するために、「①学ぶ～多彩な情報との出会いの場～」「②交流する～人と人との出会いの場～」「③創造する～新たな情報や文化の創造・発信の場～」の3つの機能を導入します。各機能がつながりを持ち、活動が循環・継続されるよう整備を行います。

学ぶ ～多彩な情報との出会いの場～

- 多種多様なメディアを活用した情報提供
- 知的好奇心を刺激するテーマを設定し、幅広いジャンルの本を配架
- 気軽に参加できる体験講座・イベントの実施

【施設イメージ】



←多様なメディアを活用した
「情報発信コーナー」



テーマごとに幅広い
ジャンルの本を配架する
「テーマ別配架コーナー」→

交流する ～人と人との出会いの場～

- 利用者相互の自由な情報交換の場の提供
- 交流を活性化させるイベント・事業の実施
- 安心して過ごせる居心地の良いサードプレイスの提供



←利用者同士の交流を促す
「オープンコラボレーションスペース」



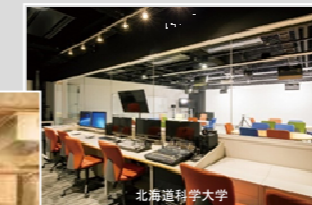
交流会等のイベントを開催する
「多目的ホール」→

創造する ～新たな情報や文化の創造・発信の場～

- 様々な創造活動に対応したラボの設置
- 課題解決に向けたプロジェクトの実施
- 創造活動成果の発表・発信



多彩な体験や創造活動を行う「ラボ」



北海道科学大学

カフェ・ラウンジ

飲食をしながら読書や交流ができる機能を整備します。



緑地広場

県民の憩い・やすらぎの場となる、緑あふれる施設の玄関口を整備します。



豊島区立南池袋公園



屋外閲覧席、オープンなイベントスペースとしても利用します。